



## ● 帰国生が受けられる入試の種類

今年は海外入試を行わないのですが、一時帰国して受験できる入学試験は下記の通りになります。適性検査は、学年相当の基礎学力を試すものです。

### 1) インターナショナルコース入試

12月19日(金)および随時

英語による適性検査(算数/数学・英語)と面接

注: TOEFL(iBT) 55以上対象。2009年度高校1年は募集しません。

### 2) 国際生入試<特進コース>

12月19日(金)

小論文(日英どちら也可)、

日本語での適性検査(算数/数学)と面接

注: 海外生活経験3年以上、英検2級相当以上の英語力が必要。

### 3) 高校推薦入試

A推薦(専願)1月22日(木)

B推薦(併願)1月23日(金)

日本語による適性検査(数学・英語)と面接

注: 11月末までに学校見学、日本人学校からの事前相談、推薦状が必要。

### 4) 一般入試

[中学] 2月1日(日)・2日(月)・3日(火)・5日(木)

日本語による2科

(国語・算数。1~3日午前のみ選択可)

または4科(国語・算数・理科・社会)

[高校] 2月10日(火)・13日(金)・16日(月)

日本語による国語・数学・英語と面接

## 小山 和智 (おやま かずとも)

広尾学園中学校高等学校 国際担当



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

## 英語補習校だより (15) 帰国児童の英語力測定

「海外育ちの子供たちは、どれくらいの英語力で帰国してきますか?」と聞かれることがあります。それぞれの子供の成長過程を無視した乱暴な質問ですが、どういうモノサシで測定したかによっても、いろいろな数値がでてきます。

まず、日本の実用英語技能検定(STEP)ですが、英語圏の現地校や国際学校から帰国してくる子供のほとんどが、小学5年までに2級を取得しています。一方、英語圏の日本人学校6年生では、2級合格は1割程度に留まっているようです。英検2級合格の子供たちにTOEFL(ITP)を受けさせてみますと、大体440~500点の層(iBT 40~60相当)となります。しかし、帰国後2年以上を経過した場合には、400点を切る場合もないわけではありません。これが英検準1級ですと、500~560点の層(iBT 60~80相当)となりますが、今年9月初旬の試験で603点(iBT 100相当)を取った6年生もいました。

では、TOEICではどうかと申しますと、全く相関がありません。本来が英語による大人のコミュニケーション能力を測定するためのものですので、題材もビジネスマンを想定して選ばれているからです。運良く800点以上のスコアが取れた子でも、英語補習校の授業についていけない場合がよくあります。小学生のTOEICスコアは、信用しないほうがよいでしょう。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

広尾学園中学校高等学校  
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14  
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192  
[www.hiroogakuen.ed.jp](http://www.hiroogakuen.ed.jp)



学校全体が、物理的にも精神的にも大きく改革している広尾学園ですが、小山先生がよく言う「面倒見のよさ」を発揮した、様々なプログラムや活動の一端の紹介です。

海外の受験希望者向けに、インターナショナル・コースや英語補習校のプログラムや授業の様子を紹介いたします。小山先生、よろしく。